

講義名	研究演習			
講義コード	55404	授業形態		開講期・曜日・時限
担当教員	今西 珠美		サンパニング・コード	SEM350

学部・学科	演習分野
商学部	国際経営論 / 国際観光論

概要説明

グローバル経営が研究の主題です。観光産業をはじめ、国境を越えるビジネスにはさまざまな状況や議論があることを理解し、考えるセンスを磨きます。事例から事業の仕組みや行動のわけを知り、事象の背後にあるメカニズム、理論を学びます。知る、見方・捉え方を広げる、分析力をつける(常識を疑う)、考え抜き、意見できるようにするの4つを目指します。教材に基づく研究報告が必須になりますが、研究演習ではより一層、読解力、調査分析力、論旨展開力、表現力、説得力、課題発見力、提案力の向上に努めます。

主な卒業論文のタイトル

「未知のウィルスによって一変した私たちの社会と社会が今後あるべき姿」
「ローコストキャリア(LCC)が創るアジアの国際交流」
「若者の観光旅行離れにより揺れる日本の観光業界」
「アニメ・マンガツーリズムと地域おこし」
「寝台列車の可能性について - 寝台列車は復活できる - 」
「日本によるインバウンド政策」
「五感を活かした癒しビジネス」
「航空業界から考える安全」

教員からの要望

本演習の履修者として次のような人物を望みます。
・明朗快活で学習意欲、向上心がある
・自ら行動し、挑戦できる
・海外、国際経営分野に興味を持っている
・社会秩序を保ち、社会規範を守ることができる
・ひとを敬い、礼儀正しく、嘘をつかない
・周りの人に迷惑をかけず、配慮し、協力できる
・日本語能力(読む・書く・聞く・話す)に問題がない

選考方法

本研究室への所属変更希望者には下記の両方法により選考を行う予定です。
(1) 対話(面接やメール等)
実施時期: 教務部より揭示される選考期間
提出書類: 申込書、成績通知書(取得資格があれば申込書に記入してください)
(2) 課題提出
レポートまたは作文の作成・提出を予定しています。

評価方法	
研究演習に取り組む姿勢・態度、研究報告・提出物の内容、ディスカッションでの貢献、および大学が求める各種提出物や調査・イベント等への対応・協力に基づき、総合的に評価します。	

教員英字氏名	研究室
Tamami Imanishi	研究棟 3413

最終学歴
神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

学位
博士(経営学)

主な研究活動・社会活動・研究業績

【研究テーマ】
「観光産業のグローバル経営」
【主な社会活動】
国土交通省交通政策審議会港湾分科会臨時委員、厚生労働省大阪労働局地方労働審議会港湾労働部会臨時委員、大阪市港湾審議会委員、大阪府地方港湾審議会委員、兵庫県港湾審議会委員、兵庫県景観審議会委員など。
【研究業績】
【著書】
今西珠美(2001)『旅行企業の国際経営』晃洋書房。 **2001年度 国際ビジネス研究会学会賞受賞、中内賞受賞
【論文】
今西珠美(2025)「日本のインバウンド・ツーリズムの特徴の変化 - 新型コロナウイルス感染症のパンデミックがもたらした影響 - 」『流通科学大学論集 流通・経営編』37(2):75-98。
今西珠美(2024)「日本のインバウンド・ツーリズムの発展 - 2000 - 2019年の 20年間の歩み - 」『流通科学大学論集 流通・経営編』36(2):31-52。
今西珠美(2023)「日本のアウトバウンド・ツーリズムの発展 - 2000 - 2019年の 20年間の歩み - 」『流通科学大学論集 流通・経営編』35(2):39-56。
今西珠美(2022)「日本の旅行業界の経営状況分析 - 35年間の歩み - 」『流通科学大学論集 流通・経営編』34(2):67-89。
今西珠美(2021)「思いがけない観光競争力 - シアトルの事例 - 」『流通科学大学論集 流通・経営編』33(2):21-35。
今西珠美(2020)「カジノ都市と観光産業のグローバル化 - ラスベガスの事例 - 」『流通科学大学論集 流通・経営編』32(2):47-69。
今西珠美(2019)「海外における高品質な旅行サービスの提供 - ジェルバックの国際経営 - 」『流通科学大学論集 流通・経営編』31(2):21-41。

趣味・特技
考える、眠る、旅をする、自然に触れる、観察する

所属
商学部経営学科

所属学会
組職学会、国際ビジネス研究会

専門分野
国際経営論、国際観光論

担当科目
経営学入門、グローバル経営基礎、国際経営論、国際観光事業論、教養特講(経営学科へのいざない)、専門基礎演習、研究演習、研究演習、卒業研究

備考
メンバー全員が学び合える有意義な演習にしたいと考えています。研究報告やディスカッションにおける創意工夫を重視します。したがって、ゼミに出席すれば合格でき、単位が修得できるというわけではありません。また、文献読解、研究報告、議論参加には相応の日本語能力と考える力、やり抜く力が必要です。

実務経験の有無及び活用
実務経験なし